

京都大学構内遺跡調査研究年報

昭和55年度

京都大学埋蔵文化財研究センター

序

京都大学構内遺跡の調査も、センターが設立されてから5年目をむかえ、その間、センターでは、年報という形で発掘調査の速報を定期化し、追って重要な遺跡については報告書を刊行してきた。はじめは、試行錯誤をくりかえしていた調査も、次第に整備され、遺跡の地区割や時期区分なども、合理的な方法が立てられるようになってきた。とくに平安時代以降の中世・近世の考古学的時期区分ができるようになったのは、大きな成果と言わなければならない。

本年報は昭和55年度における構内遺跡の調査報告と、それらの資料を基にしてなされた研究成果をあつめたセンター紀要の2部からなっている。これは、遺跡の発掘調査が単なる調査報告書の作成で終るものではなく、これらを活用して、さらに深い研究活動を行なうことが、当センターの本来の姿であると思うからである。発掘調査には多くの日時を要し、研究には余暇しか利用できない現状において、センター職員がいささかなりとも、理想へ向って努力した結果であることを、御理解いただければ幸である。

今回もまた学内、学外の多くの方々から御指導、御協力、御助言をいただいた。ここに御礼を申しあげるとともに、引きつづき今後もまた御指導、御協力下さるようお願いしたい。

昭和56年6月

京都大学埋蔵文化財研究センター長

樋口隆康

例 言

- 1 本年報は京都大学構内で昭和55年1月から56年3月末日までに発掘、整理作業を終了した埋蔵文化財調査と保存の報告および京都大学構内遺跡に関する研究をまとめたものである。
- 2 国土座標に従って1辺50mの方形の地区割をして、遺跡の位置を表示した。
- 3 層位と遺構の位置は、国土座標第6座標系 ($x = -108,000$ $y = -20,000$) が ($X = 2,000$ $Y = 2,000$)となる京都大学構内座標によって表示した。
- 4 遺構の略号を使う場合は、奈良国立文化財研究所の方式に従って、井戸(S E)、道路(S F)のように表示し、各調査ごとに通し番号を1から付した。
- 5 遺物番号は、本文、実測図、写真を通して表示を統一した。遺跡の調査名をローマ数字で表わし、調査ごとの通し番号を1から付した。
I：京都大学医学部構内A P19区の発掘調査
II：京都大学本部構内A T27区の発掘調査
III：京都大学構内の試掘・立合調査
(例 I1：京都大学医学部構内A P19区出土遺物1番)
- 6 原則として遺物実測図は縮尺1/4、遺物の写真は1/2に統一した。
- 7 注は各章ごとにまとめて章末に記載し、参考文献は本文中に〔著者名、発表年〕の形式で表わし、本文末に一括した。
- 8 遺物・遺構の実測と製図は、泉拓良、清水芳裕、五十川伸矢、浜崎一志、吉野治雄、津隈久美子、田中はる代、小笠原義治が行なった。
- 9 本文は、樋口隆康、亀井節夫、川上貢、泉拓良、清水芳裕、五十川伸矢、浜崎一志、吉野治雄が各章を分担執筆し、執筆者名を各章の初めに記した。
- 10 編集は、樋口の指導のもとに泉、清水が行ない、五十川、浜崎、吉野が協力した。

京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和55年度

目 次

第 I 部 昭和55年度京都大学構内遺跡の調査

| | |
|---------------------------------|----|
| 第 1 章 昭和55年度京都大学構内遺跡調査の大略 | 1 |
| 1 調査の大要 | 1 |
| 2 土師器の時期区分と年代表記 | 2 |
| 第 2 章 京都大学構内遺跡の概略 | 5 |
| 1 京都大学構内の遺跡 | 5 |
| 2 吉田キャンパスの遺跡 | 5 |
| 3 縄文・弥生時代の遺跡 | 6 |
| 4 古墳時代～奈良時代の遺跡 | 7 |
| 5 平安時代～室町時代の遺跡 | 8 |
| 6 吉田キャンパス内の遺跡のまとめ | 12 |
| 第 3 章 京都大学医学部構内AP19区の発掘調査 | 13 |
| 1 調査の経過 | 13 |
| 2 層位 | 13 |
| 3 遺構 | 14 |
| 4 遺物 | 16 |
| 5 小結 | 20 |
| 第 4 章 京都大学本部構内AT27区の発掘調査 | 21 |
| 1 調査の経過 | 21 |
| 2 層位 | 21 |
| 3 遺構と遺物 | 23 |
| 4 小結 | 32 |

| | |
|-----------------------|----|
| 第5章 京都大学構内の試掘・立合調査 | 35 |
| 1 教養部構内 | 35 |
| 2 本部構内 | 39 |
| 3 医学部・病院構内 | 41 |
| 第Ⅱ部 京都大学埋蔵文化財研究センター紀要 | |
| 第6章 土器・陶器の流通 | 43 |
| ——胎土分析の方法と成果—— | |
| 1 はじめに | 43 |
| 2 土器の胎土分析 | 44 |
| 3 瓦の材質分析 | 47 |
| 4 須恵器・陶器の胎土分析 | 48 |
| 5 小結 | 51 |
| 第7章 平安京・中世京都の葬地と墓制 | 53 |
| 1 平安京・中世京都の墓 | 53 |
| 2 葬法の変遷 | 56 |
| 3 文献からみた葬地と墓制の変遷 | 58 |
| 4 小結 | 61 |
| 参考文献 | 63 |
| 京都大学構内遺跡調査要項 | 67 |

図 版 目 次

- 1 京都大学吉田キャンパスの地区割と調査地点
- 2 和歌山県瀬戸遺跡
土偶
- 3 京都大学医学部構内 A P 19 区
 - 1 発掘後全景 2 西半部第 1 検出面の遺構
- 4 京都大学医学部構内 A P 19 区
 - 1 南壁西半部の層位 2 北壁中央部の層位
- 5 京都大学医学部構内 A P 19 区
 - 1 土坑 S K 66 の土師器出土状況 2 井戸 S E 15 の曲物出土状況 3 井戸 S E 3
 - 4 溝 S D 10, 井戸 S E 11・S E 12
- 6 京都大学医学部構内 A P 19 区
土師器, 須恵器, 瓦器, 二彩釉陶器, 天目, 灰釉系陶器, 白磁, 青磁
- 7 京都大学医学部構内 A P 19 区
軒丸瓦, 軒平瓦, 鬼瓦
- 8 京都大学本部構内 A T 27 区
 - 1 道路 S F 1-I (北西から) 2 道路 S F 1-III (南西から)
- 9 京都大学本部構内 A T 27 区
 - 1 土坑 S K 1 (北東から) 2 堀 S D 1 (南東から)
- 10 京都大学本部構内 A T 27 区
 - 1 遺跡全景 (北東から) 2 道路 S F 3 (北から) 3 土墳墓 S K 3 (南西から)
- 11 京都大学本部構内 A T 27 区
 - 1 竪穴住居跡 S B 1 (南から) 2 竪穴住居跡 S B 2 (南から)
- 12 京都大学本部構内 A T 27 区
須恵器, 土師器, 白磁
- 13 京都大学構内の試掘調査
 - 1 教養部構内 73 地点 2 検出の井戸 2 教養部構内 93 地点 検出の土坑
 - 3 本部構内 71 地点 4 検出の溝 4 病院構内 72 地点 7 検出の土坑

挿 図 目 次

| | | |
|----|-----------------------------------|----|
| 1 | 北白川扇状地の縄文・弥生時代遺跡〔京都大学構内遺跡の概略〕 | 6 |
| 2 | 軒瓦分布密度の時期的変化 | 11 |
| 3 | 北壁の層位 (1)〔京都大学医学部構内A P19区〕 | 14 |
| | 北壁の層位 (2) | 15 |
| 4 | 遺構配置図 (1) | 16 |
| | 遺構配置図 (2) | 17 |
| 5 | SK66, SE1, SK53, SK42, 不定形土坑出土の遺物 | 19 |
| 6 | 中央畔南壁, 西壁の層位〔京都大学本部構内A T27区〕 | 22 |
| 7 | 近世の遺構 | 23 |
| 8 | 道路SF1の断面 | 24 |
| 9 | SK1, SD1出土の遺物 | 25 |
| 10 | 土塋墓SK3 | 26 |
| 11 | 鉄釘, 火打金 | 26 |
| 12 | 古代・中世の遺構 | 27 |
| 13 | SD3, SK4, SK3出土の遺物 | 28 |
| 14 | SB1, SB2出土の遺物 | 30 |
| 15 | 竪穴住居跡SB1・SB2 | 31 |
| 16 | 京都大学周辺の道路 | 32 |
| 17 | 教養部構内の調査位置〔京都大学構内の試掘・立合調査〕 | 35 |
| 18 | 教養部構内試掘調査の層位 | 36 |
| 19 | 教養部構内SK1, SK2, SE1出土の遺物 | 37 |
| 20 | 楽友会館煙突工事立合調査出土の遺物 | 38 |
| 21 | 本部構内の調査位置 | 39 |
| 22 | 本部構内試掘調査の層位 | 40 |
| 23 | 本部構内SK1, SD1, 病院構内SK1出土の遺物 | 41 |
| 24 | 医学部構内・病院構内の調査位置 | 42 |
| 25 | 病院構内試掘調査の層位 | 42 |

| | | |
|----|--|----|
| 26 | 分析土器の出土遺跡と近畿地方地質概略図〔土器・陶器の流通〕 | 45 |
| 27 | 胎土組成の K_2O-CaO の分布と Na_2O-K_2O の分布 | 49 |
| 28 | 中世墓における葬法〔平安京・中世京都の葬地と墓制〕 | 55 |
| 29 | 常盤東ノ町遺跡の中世墓地 | 55 |
| 30 | 平安京・中世京都の葬地と墓 | 57 |

表 目 次

| | | |
|---|-------------------------|----|
| 1 | 土師器時期区分の大略 | 3 |
| 2 | 吉田キャンパス出土の軒瓦数 | 9 |
| 3 | 調査面積 $100m^2$ あたりの軒瓦出土数 | 10 |
| 4 | 分析土器の胎土組成 | 46 |
| 5 | 各地産すり鉢の胎土組成表 | 49 |
| 6 | 京都大学構内遺跡のおもな調査 | 72 |

昭和56年9月10日印刷

昭和56年9月16日発行

京都大学構内遺跡調査研究年報

昭和55年度

編 集 京都大学埋蔵文化財研究センター
発 行 京 都 市 左 京 区 吉 田 本 町

印 刷 中 西 印 刷 株 式 会 社
製 本 京 都 市 上 京 区 下 立 売 通 り 小 川 東 入

正 誤 表

| | | 誤 | 正 |
|----|--------------|--------------------|-----------------------|
| 本文 | 18 頁 25 行 | S K 14 | S E 14 |
| | 59 頁 24 行 | 西南限 _二 , | 西南限 _二 |
| | 26 行 | 北限 _二 , | 北限 _二 |
| 挿図 | 40 頁 22 図(左) | (欠落) | 9 (4 と 10 の間) |
| 図版 | 6 | I 39 灰釉陶器 (欠落) | I 39 灰釉系陶器 I 40 白磁 |